

(別記第 2 号様式 道民意見提出手続の意見募集結果)

「北海道グローバル戦略（2021 改訂版・素案）」についての意見募集結果

令和 3 年（2021 年）12 月 8 日

「北海道グローバル戦略（2021 改訂版・素案）」について、道民意見提出手続により、道民の皆様からご意見を募集したところ、13 人のべ 29 件のご意見が寄せられました。ご意見の要旨及びご意見に対する道の考え方については、次のとおりです。

全体	
意見の概要	意見に対する道の考え方※
<p>海外の成長力を取り込むという視点が賛成だが、総花的ではなく脱炭素化に絞り措置することが重要。SDGs といっても 17 の目標値があり抽象的。これから潮流を見ると、脱炭素に的を絞った取組を海外にアピールすべき。</p>	<p>道では、「ゼロカーボン北海道」の取組を進めており、脱炭素化は、大変重要であると認識しております。そのため、展開方向の各取組イメージにおいて、気候変動問題への対応を追加しております。</p>
<p>成長力の取り込みには、北海道の優位性、ポテンシャルの高さなど明確に位置付け、明示する必要がある。</p> <p>また、地域の活性化は賛成だが、人口減少や産業の構造的課題への対処など、具体事例を入れるべき。一般的に公表されているデータだけでも十分分析ができる。具体的な目標（KPI）として、道民一人当たりの賃金、企業の付加価値などを挿入することで、戦略の実効性が高まると思われる。</p>	<p>北海道の優位性やポテンシャルについては、「数字でみる北海道の現状」や、「世界に通用する北海道のちから」において整理しておりますが、ご意見の趣旨を踏まえ、今後の施策展開に当たっては、こうした本道の強みを活かした取組を進めてまいります。</p> <p>なお、人口減少への対処等については、別に策定している北海道創生総合戦略等でお示ししており、本グローバル戦略では、こうした諸計画とも連動させながら推進していくこととしております。</p> <p>また、産業の構造的課題への対処につきましては、本戦略の展開方向Ⅲ「世界情勢の変化への機動的で柔軟な対応」（1）世界を視野に入れた力強い地域経済の確立において、国際認証等の導入促進など、国際競争力の一層の強化や、原材料等の自給率の向上など、生産基盤の強化について取組イメージで整理するとともに、具体的事例を記載しました。</p>

I 現状	
意見の概要	意見に対する道の考え方※
<p>■ 2 北海道の現状と、今、求められているもの</p> <p>○道内企業の海外進出拠点数</p> <p>2019 年度の道内企業の海外進出拠点数である 401 がどのくらい多い・少ないのかわかりづらいため、他都道府県や全国平均との比較があればよい。</p>	<p>本データは、国際関連施策を展開するに当たり、ターゲットを重点化、明確化するための参考として、道内企業の海外進出拠点をエリア別に示したものであり、道内のみの調査となっております。</p> <p>出典元の調査は、北海道と日本貿易振興機構北海道（ジェトロ北海道）との共同調査であり、他都道府県や全国調査は行っておりません。</p> <p>なお、日本企業の海外事業展開についてはジェトロで調査を実施しており公表されております。</p>

意見の概要	意見に対する道の考え方
<p>■ 3 世界に通用する北海道の「ちから」</p> <p>○安全・安心で品質の高い農水産物</p> <ul style="list-style-type: none"> ・欧米では禁止されているグリホサートやラウンドアップ等の毒性の高い除草剤が、野放しで販売されている現状がある。 ・欧米で禁止された除草剤の最終処分場として、日本に押し付けられている。 ・欧米に比べて、日本は食品添加物への規制が、最も緩い。 ・欧米では禁止されているトランス脂肪酸も禁止に至っていない。 ・道産品の海外への輸出の際は、各国から厳しい審査を受け、人体に有害な食品添加物、人工甘味料、化学調味料などの『表示』が追加される。欧米諸国へは禁輸措置も予想される。 	<p>日本での、食品添加物の品質の規格や使用量の基準は、国際的な規格や基準に基づき厚生労働省において定めており、日本と諸外国とでは添加物の定義、対象食品の範囲などが異なっていることから、単純に比較することはできないとされています。</p> <p>なお、施策の推進に当たっては、ご意見のような懸念の声があることにも留意してまいります。</p>
	E

II 展開方向	
意見の概要	意見に対する道の考え方※
<p>■ 展開方向</p> <p>2 3つの視点と展開方向</p> <p>ターゲットが明確化、重点化されていない。</p>	<p>ターゲットの明確化、重点化を図るため、「4北海道と世界各地域との交流」において、各国、地域との交流のポテンシャルに加えて、それぞれの地域別の展開内容や、分野別の重点について記載しました。</p>
	A
<p>■ 3 展開方向</p> <p>展開方向 I 北海道の魅力や強みを活かした海外展開</p> <p>(1) 北海道ブランドの確立と戦略的活用</p> <p>海外にすべてのものを売り出してしまうと希少性がなくなりブランド力が落ちる。北海道に来ないと買えないものにすべき。</p> <p>海外にお菓子も含む食品加工品を売り出してしまうと希少性がなくなりブランド力が落ちることを危惧している。また北海道へ旅行したいというインセンティブも低下することもあるのではないか。</p> <p>北海道に来ないと買えないものがもっとあってもいいと思う。</p>	<p>ご意見の趣旨は、道としても重要であると考えており、北海道ブランドの海外展開に当たっては、品目や輸出先など、ターゲットの重点化や明確化を進めながら、戦略的な活用を図ることとしております。いただいたご意見につきましては、今後の施策の推進に当たって参考とさせていただきます。</p>
	B
<p>■ 3 展開方向</p> <p>展開方向 I 北海道の魅力や強みを活かした海外展開</p> <p>(1) 北海道ブランドの確立と戦略的活用</p> <p>国内市場が縮小する中どのように海外を取り込むか。国内がライバルになる。</p>	<p>地域の活性化を目指して、海外の成長力を取り込んでいくため、展開方向 I (1) の対応方向として、食や観光など、潜在力や競争力を有する分野における価値の更なる磨き上げや、ターゲットの明確化、重点化を図るなど北海道ブランドの戦略的な活用を図ることとしております。</p>
	B

意見の概要	意見に対する道の考え方※
<p>■ 3 展開方向 展開方向 I 北海道の魅力や強みを活かした海外展開 (1) 北海道ブランドの確立と戦略的活用 インターネット上の情報は誰でも閲覧できるが、ビジネスにつながらない。英語の情報で、どのように情報をとるのか。また、日本のホームページはわかりづらいし、英語が出てこない。あっても短い。情報として入ってこない。情報の発信は道だけではないが、日本全体が遅れている。</p>	<p>ご意見の趣旨を踏まえ、展開方向 I の取組イメージとして、「デジタル技術の積極的な活用や、海外の北海道ファン、道の海外拠点等を通じた効果的な情報収集・発信」や、企業等を対象とした「デジタル技術の対応力強化に向けた支援」などを追加しました。</p> <p style="text-align: right;">A</p>
<p>■ 3 展開方向 展開方向 I 北海道の魅力や強みを活かした海外展開 (1) 北海道ブランドの確立と戦略的活用 どさんこプラザは道産品を売り込みたいという、テスト販売の場。民間と既に棲み分けができています。道、行政として行える取組に期待。</p>	<p>今後もどさんこプラザ海外店を活用し、関係者が連携した道産品の販路拡大を進めてまいります。</p> <p style="text-align: right;">E</p>
<p>■ 3 展開方向 展開方向 I 北海道の魅力や強みを活かした海外展開 (1) 北海道ブランドの確立と戦略的活用 今後の水際対策の対応が緩めばインバウンドは回復する。海外出張のあり方が変わった。ほとんどがオンラインでできるようになった</p>	<p>今後の海外展開に当たっては、デジタル経済の拡大など社会経済情勢の変化や人々の行動変容等に的確に対応していくことが重要と考えており、展開方向 I の取組イメージに、「ECやオンライン商談など交流やビジネス手段の多角化」を追加するなど、デジタル技術の活用について整理しました。</p> <p style="text-align: right;">A</p>
<p>■ 3 展開方向 展開方向 I 北海道の魅力や強みを活かした海外展開 (1) 北海道ブランドの確立と戦略的活用 市場を考えるとインドネシア向けにハラルの対応が必要になってくる</p>	<p>本戦略においては、今後の海外展開に当たって本道の強みである食や観光などの分野における価値の更なる磨き上げを図ることとしております。</p> <p>いただいたご意見につきましては、今後の施策の推進に当たって参考とさせていただきます。</p> <p style="text-align: right;">B</p>
<p>■ 3 展開方向 展開方向 I 北海道の魅力や強みを活かした海外展開 (1) 北海道ブランドの確立と戦略的活用 ECサイト、始めから売れない。2年間ほどの支援があるといい。</p>	<p>ご意見の趣旨を踏まえ、展開方向 I の取組イメージとして、企業等の「デジタル技術の対応力強化に向けた支援」について追加しました。</p> <p>なお、道の支援策としては、中小・小規模企業に専門家を派遣し、インターネットを活用した販路開拓などについて支援を行っています。</p> <p style="text-align: right;">A</p>
<p>■ 3 展開方向 展開方向 I 北海道の魅力や強みを活かした海外展開 民間企業の事業意欲の喚起のためには、アドベンチャートラベルの10年後の目指す一人当たり単価など示されるとよい。</p>	<p>北海道観光のくにつくり行動計画では、観光消費額単価を示しており、外国人は2019年度の実績で138,778円です。また、アドベンチャートラベル市場の拡大やその他の体験型観光の推進等による、「娯楽等サービス費」の向上により、観光消費額単価の向上を目指すこととしています。</p> <p>いただいたご意見につきましては、今後の施策の推進に当たって参考とさせていただきます。</p> <p style="text-align: right;">C</p>

意見の概要	意見に対する道の考え方※
<p>■ 3 展開方向 展開方向Ⅰ 北海道の魅力や強みを活かした海外展開 マーケットインの訴求先の視点が欠けている。アドベンチャートラベルなど、ミレニウム世代などターゲットにするなど明確化した方がよいのではないか。</p>	<p>ターゲットの明確化については「4 北海道と世界各地域との交流」において、各国、地域との交流のポテンシャルに加えて、それぞれの地域別の展開内容や、分野別の重点について記載しましたが、いただいたご意見につきましては、今後の施策の推進に当たって参考とさせていただきます。</p>
<p>■ 3 展開方向 展開方向Ⅰ 北海道の魅力や強みを活かした海外展開 (2) グローバルネットワークの強化 全く性質の異なるMICEとIRを、抱き合わせの様に、並列して提案する事自体、極めて不適切である。カジノの誘致には断固反対。</p>	<p>MICEは、社会経済活動への波及効果や新たなビジネス機会を生み出すなど、幅広い効果が期待されるものであり、また、中核施設としてMICE施設を持つIRは、その大規模会議場を中心に国際学会や展示会等の開催が可能になると考えています。 IRについては、新たなインバウンド等の取込方策の一つとして検討してまいります。ご意見のような懸念の声があることにも留意してまいります。</p>
<p>■ 3 展開方向 展開方向Ⅱ 世界と北海道をつなぐ環境づくり (1) 多文化共生社会の形成 道内での、温泉旅館、ホテル、銭湯、プールでの「入れ墨客お断り」の制限を撤廃すべきである。 また、道庁職員の募集において、入れ墨を理由に、採用を断るのは禁止とすべきである。 それが出来ないのなら、「グローバル化」と「多文化共生社会の形成」は断念すべきである。</p>	<p>外国人の中には、宗教や文化等の様々な理由で入れ墨をしている方々もいることから、温泉や銭湯等の入浴に際しては、利用者相互の理解を深めることが必要と考えております。 道民一人ひとりが国際社会に対する認識を深め、異なる価値観を理解していただくことにより、多文化共生社会の実現に向けた取組を進めてまいります。 なお、道職員採用試験において、入れ墨による受験の制限は設けておりません。</p>
<p>■ 3 展開方向 展開方向Ⅱ 世界と北海道をつなぐ環境づくり (1) 多文化共生社会の形成 私はかつて外国人が多く居住する自治体に住んでいたことがある。当時は、だれもが自分の故郷の国の文化を押し付け合うような生活がなされ、言葉の壁もあって余計にトラブルを助長するような事態をもたらしていた。現在私が住んでいる自治体では、外国人は、大学などの留学生が主で、彼らは地元の文化に馴染もうと努力しているように見受けられる。多数派を形成する人種の人々が、その地域で住む人の文化となっている実態がある。それでは、これからも続く国際化する日本社会に馴染んだ生活体系とはいえない。各々が進化した心の発展が望まれる。</p>	<p>技能実習生などの受入拡大等に伴い、本道で働き、暮らす外国人の方々の国籍や人種も多様化しており、展開方向Ⅱ「世界と北海道をつなぐ環境づくり」において、生活環境や相談体制の充実を図るなど、少数派の方々を含め、外国人の方々を地域社会の一員として受け入れるために必要な環境づくりを進めることとしております。</p>
<p>■ 3 展開方向 展開方向Ⅱ 世界と北海道をつなぐ環境づくり (2) 人材・技術を活用した交流・協力の促進 取組イメージに、「脱炭素や、SDGsへの取組をリードしている国への人材派遣、ノウハウの取得」を付け加えた方がよい。グローバルな問題に対応できる人材を育成するために必要。</p>	<p>ご意見の趣旨を踏まえ、展開方向Ⅱ(2)の取組イメージに、「大学と連携したグローバル人材の育成」を追記し、展開方向Ⅲの取組の方向性に、世界の経験やノウハウを学び、取り込む視点を追加しました。</p>

意見の概要	意見に対する道の考え方※
<p>■ 3 展開方向 展開方向Ⅱ 世界と北海道をつなぐ環境づくり (2) 人材・技術を活用した交流・協力の促進 人材のテーマは必要、優秀な外国人をどう取り込むか、売り込むだけではなく取り込む視点。 グローバル戦略を推進していく人材が育っているか。道民にその視点があった方がよい。</p>	<p>ご意見の趣旨を踏まえ、展開方向Ⅲ(2)の取組イメージに、「大学と連携したグローバル人材の育成」を追記し、展開方向Ⅲの取組の方向性に、世界の経験やノウハウを学び、取り込む視点を追記します。</p> <p style="text-align: right;">A</p>
<p>■ 3 展開方向 展開方向Ⅱ 世界と北海道をつなぐ環境づくり (2) 人材・技術を活用した交流・協力の促進 外国人の意味が広義すぎる。例えば技能実習生、留学生、観光客、移住者では選ぶ際の基準や魅力となる支援が異なると考えられるため、各々に応じた支援や政策を通して受入環境をつくるべき。</p>	<p>展開方向Ⅱでは、「世界と北海道をつなぐ環境づくり」として、留学生や技能実習生など本道で生活される外国人の受入環境づくりについて整理しております。</p> <p>観光客については、展開方向Ⅰの「北海道の魅力や強みを活かした海外展開」の中で、観光分野における取組イメージを整理しております。</p> <p style="text-align: right;">B</p>
<p>■ 3 展開方向 展開方向Ⅱ 世界と北海道をつなぐ環境づくり (2) 人材・技術を活用した交流・協力の促進 外国人に選ばれる取組を進めるべき。困った時に手を差し伸べられる対応ができれば、北海道のファンが必然的に増えると思う。 出島のようなモデル地域を道内で選定し、外国人材を定着させる取組を進めたらよい。道内のメガファームなど外国人が生活しやすい環境を整える好事例を知ってもらうなどの取組も必要。</p>	<p>ご意見の趣旨を踏まえ、展開方向Ⅱの取組イメージの中で、「外国人の適正な雇用・研修」などの環境づくりや「外国人材定着のための取組の促進」など、今後の施策の方向性について整理しました。</p> <p style="text-align: right;">A</p>
<p>■ 3 展開方向 展開方向Ⅱ 世界と北海道をつなぐ環境づくり (3) 国際交通網の拡大・物流機能の強化 輸出などは物流がキモだったりする。ネットショッピングの増加などにより配送が大幅に増加している。代替機能が用意されているか。</p>	<p>「北海道食の輸出拡大戦略<第Ⅱ期>」では、輸出の拡大に向けて、国際航空路線や国際航路の誘致と合わせて、港湾・空港などの主要輸出拠点の物流機能の充実・強化を図ることや、安全・高品質・こだわりの道産食品を迅速・確実・低コストで現地に届ける取組を推進することとしており、本グローバル戦略では、このような戦略とも連動させながら推進してまいります。</p> <p style="text-align: right;">E</p>
<p>■ 3 展開方向 展開方向Ⅲ 世界情勢の変化への機動的で柔軟な対応 (1) 世界を視野に入れた力強い地域経済の確立 「グリーン社会」とは、低消費電力のECO社会を意味し、野鳥や昆虫とも共存できる意味も持つ。IT・デジタル化を進めるには、膨大な電力を必要とし、各都市の中心部から野鳥も昆虫も駆逐される。デジタル社会と、グリーン社会は相反する矛盾した用語であり、「デジタル・グリーン社会の実現」という、まやかしの偽り言葉は、削除すべきである。</p>	<p>「デジタル・グリーン社会」とは、デジタル化によりあらゆる分野を効率化するとともに、グリーン化により、脱炭素化を進めるという趣旨で記載しておりましたが、記載内容がわかりづらいことから、「デジタル化やグリーン社会の実現」に修正しました。</p> <p style="text-align: right;">A</p>
<p>■ 3 展開方向 展開方向Ⅲ 世界情勢の変化への機動的で柔軟な対応 (2) 海外展開・交流におけるリスクマネジメント 本道の地名等を付けた商標の冒認出願や模倣品の流通が顕在化しており、日本品種の保護強化が必要。</p>	<p>ご意見の趣旨は、道としても重要と考えており、展開方向Ⅲの取組イメージとして、「海外における商標侵害等のリスクや対抗策の普及啓発」と記載しております。</p> <p style="text-align: right;">B</p>

意見の概要	意見に対する道の考え方※
<p>■ 3 展開方向 展開方向Ⅲ 世界情勢の変化への機動的で柔軟な対応 (2) 海外展開・交流におけるリスクマネジメント ニセコをみると高級路線になっている。投資される方はどんな方なのか見極めが必要。</p>	<p>投資に係るリスクマネジメントについて、道では、毎年、市町村連絡会議を開催し、投資情報の共有や外国企業との取引における注意事項を周知・啓発しております。</p> <p>いただいたご意見につきましては、今後の施策の推進に当たって参考とさせていただきます。</p>
<p>■ 3 展開方向 展開方向Ⅲ 世界情勢の変化への機動的で柔軟な対応 (2) 海外展開・交流におけるリスクマネジメント グローバル化にこれから求められるのは、脱炭素、ESG型投資が非常に重要。特に脱炭素化については、具体的な企業活動として、サプライチェーンまで二酸化炭素の削減把握を求められている。自社の活動のみならず、販売先への二酸化炭素の関連付けが求められる。特にヨーロッパで展開する場合、脱炭素化に厳しい。</p>	<p>道では、「ゼロカーボン北海道」の取組を進めており、ご意見の趣旨である脱炭素化に向けた取組については、大変重要であると認識しております。そのため、展開方向の各取組イメージにおいて、気候変動問題への対応を追加しております。</p>

Ⅲ その他参考	
意見の概要	意見に対する道の考え方※
<p>■ 関連指標 「道産食品輸出額」の目標について、福島第一原子力発電所の敷地の地盤が崩壊した場合、食糧難に陥る恐れがあるので、しばらく現状維持とすべき。</p>	<p>「道産食品輸出額」の目標値については、各種計画やこれまでの輸出実績を参考とした輸出量・輸出額の伸びなどを考慮し、令和5年(2023年)までに道内港と道外港を合わせた道産食品の輸出額1,500億円の目標値を設定し、令和6年(2023年)以降は、1,500億円以上の輸出額を目指しております。</p> <p>ご意見のような懸念の声があることには留意してまいります。</p>
<p>■ 関連指標 「道産食品輸出額」及び「輸出額」の指標で、目標値が膨大な伸びを見せているのには、何か裏付け(具体的な方針や根拠となるデータ)があるのか。</p>	<p>「道産食品輸出額」の目標値については、各種計画やこれまでの輸出実績を参考とした輸出量・輸出額の伸びなどを考慮し、令和5年(2023年)までに道内港と道外港を合わせた道産食品の輸出額1,500億円の目標値を設定し、令和6年(2023年)以降は、1,500億円以上の輸出額を目指しております。</p> <p>「輸出額」の目標値については、地方創生総合戦略の目標値である5,000億円(平成28年(2016年))について、毎年約5%(250億円)増加させることを目指し、目標値を設定しているものです。</p>

意見の概要	意見に対する道の考え方※
<p>■ 関連指標</p> <p>「外国人留学生について」現状値と目標値に変化がないのはなぜなのか。海外の情勢を把握し、成長力を取り込んでいく上では、留学生等の受け入れや、こちら側からの留学生の排出も有効な手立てとなるのではないか。</p>	<p>「外国人留学生数」については、直近の実績値は目標値を超えておりますが、新型コロナウイルス感染症の影響により外国人留学生数は減少傾向にあります。留学生の新規入国の再開を含む渡航制限の緩和の動きもありますが、当面、新たな目標値の設定は困難であるため、今後の状況を踏まえ、必要な検討を行ってまいります。</p> <div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">E</div>

※「意見に対する道の考え方」のA～Eの区分は次のとおりです。

A	意見を受けて案を修正したもの
B	案と意見の趣旨が同様と考えられるもの
C	案を修正していないが、今後の施策の進め方等の参考とするもの
D	案に取り入れなかったもの
E	案の内容についての質問等

問い合わせ先

総合政策部国際局国際課企画調整係

電話：011-204-5113

経済部経済企画局国際経済課国際経済係

電話：011-204-5339